

障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業（パッケージ型導入支援）における導入事例

令和 8 年 6 月 19 日

法人名：社会福祉法人たかおか新生会

事業所名：新生苑

1. 製品名

見守り介護ロボット「aams（アームス）」の増設（4 台）

【特徴】心拍、呼吸、体動、離着床、睡眠の状態等を離れた場所から見守ることができる、マット型の見守り支援介護ロボットです。訪室の合間も aams が 24 時間ご利用者の様子を見守ることで、見守りのサポートを行うことができる。

2. パッケージ型による機器導入前の課題

入所利用者の重度高齢化が進む中で、身体疾患を有する利用者が増加傾向にあり、症状が悪化した場合に頻回な身体状態（心拍、呼吸、体動などの生体情報）を継続的に観察及び記録が必要となるケースが増加している。

3. パッケージ型による機器導入の推進方法

- ①環境の整備 →令和 6 年度より「aams」導入のため環境整備を実施（Wi-Fi 化）
- ②業務の明確化→使用対象利用者の検討、巡回時間の設定（全利用者）
- ③手順の作成 →業者よりアプリの使用方法、設定方法などの基本操作を教わる。
- ④情報共有 →男性、女性ごとに支援会議にて使用対象者の選定及び操作などの再周知を実施。
- ⑤記録・報告 →令和 6 年 5 月より仮使用開始。アラート発生時の記録記載と引継ぎ時での報告。
- ⑥活用法の検討→アラート発生時の対応方法（バイタル測定や視診、声掛けなど）の検討と実施。また、増設希望の意見もあり支援の現場にて必要台数などを検討し導入予定とする。
- ⑦増設後の対応→基本的な操作は変わらないものの、各職員に改めて質問事項や確認したいことを聞き取り。業者による説明会を実施（R8 年 4 月）。

4. パッケージ型による機器導入後の成果

- ①数値化されたバイタル値を一覧で確認できるようになったこと
- ②睡眠状況の深浅や覚醒のタイミングなどの睡眠リズムの把握ができる。
- ③夜勤帯の立ち上がり、離床、体調確認が目で見えて分かる安心感がある。
- ④根拠あるデータによる記録作成が可能となる。多職種（医務）との情報共有可能。
- ⑤Wi-Fi が導入されたことで他機器（インカム）などの導入の検討ができる。
- ⑥増設後の機器のセンサーはまとめられており設置が容易となった。

5. 今後の課題

- ①機器での状態を確認し、満足するのではなく本人の状態を目視での確認が必要。
- ②既設4台に加え、増設4台し職員の不安や利用者の安全に繋がるが、利用者ごとの細かい設定などを活用し、深みのあるデータを収集し支援につなげていく。
- ③改善活動チームを男女で各2名ずつを設定し、センター的な役割を明確にする。
- ④機器増設により、グループ化の活用を行うことで、利用者、職員双方の負担軽減を図る。